

<資料 1 >

『哲学探究』各版と『数学の基礎』の内容の関係（アラビア数字は現行版『哲学探究』の節番号を表す。各版の詳細については Joachim Schulte(2001)参照）

- ・戦前版『哲学探究』（1936-7年）＝前半（1-188）＋後半（『数学の基礎』Part I）
- ・『数学の基礎』（1938-1944年）＝戦前版『哲学探究』前半（Part I）＋1938年から中間版執筆直前までに書かれた数学に関する考察（Part II-VII）
- ・中間版『哲学探究』（1944年）＝戦前版前半（1-188）＋189-421の半分弱
- ・最終版『哲学探究』（1945-6年）＝現行版『哲学探究』（1-693）

<資料 2 >

ここに、過去十六年間私が携わってきた哲学的な探究の堆積物であるさまざまな思考を公にする。それらは、意味という概念、理解という概念、文という概念、論理という概念、数学の基礎、意識の諸状態、など多くの主題に関わっている。私はこれらの思考を「考察」、すなわち短い小節の形で書き表した。ある時には同一の主題についての一連の多くの考察として、ある時には考察ごとに話をいきなり別の場所へ飛躍させながら・・・

（『哲学探究』序、鬼界訳（以下同じ））

<資料 3 >

それなら私は、「命令」や「規則」が何を意味するのかを「規則性」によって説明することなのか？—私はどのようにして「規則的な」、「一様な」、「同じ」という言葉を誰かに説明するのか？—例えばフランス語しか知らない人には、これらの言葉をそれらに相当するフランス語の言葉で説明するだろう。だがこれらの概念をまだ持っていない人には例と練習を通じて、それらの言葉をどう使うのかを教えるだろう。—そしてその際、私自身が知っているその人に伝えないことは何もない。

つまりその訓練で私はその人に、同じ色、同じ長さ、同じ図形を示したり、それらを見つけさせたり、描かせたり、等々といったことをする。例えば、ある命令で反復的な装飾模様を「同じように」続けるように仕向ける—そして反復的な操作の系列を続けるようにも仕向ける。すなわち、例えば・・・ ・・・ に対して・・・・・・ と続けるように仕向けるのだ。

私はこれらのことをその人にやって見せ、その人はそれをまねる。そして私は、同意、否認、期待、励ましの気持ちを表すことによってその人に影響を与える。その人の好きにさせることもあれば、制止することもある、等々。

自分がこうした訓練を目撃したと考えてほしい。そこではどんな言葉もそれ自身で説明されることはなく、いかなる論理的循環も犯されていないだろう。

「等々」と「等々、無限に続く」という表現もこの訓練で説明される。その説明のためにはある身振りが特に役に立つ。「同じように続けよ！」あるいは「等々」を意味する身振りは、物や場所を指す身振りと比べられる働きを持っている。

表記上の省略である「等々」とそうでない「等々」を区別しなければならない。「等々、無限に続く」は表記上の省略ではない。πのすべての桁が書けないのは、そう思っている数学者もいるが、人間の欠陥によるのではない。

示された例の範囲に留まる訓練と、それを「超えて示す」訓練は区別される。

(『哲学探究』 §208、下線は引用者)

<資料4>

To repeat, what the correct following of a rule consists in cannot be described *more closely* than by describing the *learning* of ‘proceeding according to the rule.’ And this description is an everyday one, like that of cooking and sewing, for example. It presupposes as much as these. It distinguishes one thing from another, and so it informs a human being who is ignorant of something particular. (Cf. the remark: Philosophy doesn’t use a preparatory language ,etc.)

(*Remarks on the Foundations of Mathematics*, Part VII §26,p.392,下線は引用者)

<資料5>

しかしこれがすべてなのか？より深い説明がまだあるのではないか？あるいは、説明の理解はもっと深いものでなければならないのではないか？—そう言うが、そもそも私自身もっと深い理解を持っているのか？自分が説明した以上のことを私は理解しているのか？—だがそれなら、自分はそれ以上のことを理解しているという感覚はどこから来るのだ？

(『哲学探究』 §209)

<資料6>

SUMMARIZING

Mathematics is created by a free action independent of experience; it develops from a single aprioristic basic intuition, which may be called *invariance in change* as well as *unity in multitude*.)

.....

In mathematics mathematical definitions and properties ought not to be studied again by mathematical methods; they ought to be no more than a means of conducting as economically as possible one’s own memory and communication with other people. In the system of definitions there are elements of mathematical construction which must remain irreducible and which therefore, when communicated, must be understood from

a single word or symbol; these are the elements of construction which are immediately conceived in the basic intuition or intuition of the continuum. Notions such as continuous, entity, once more, and so on are irreducible.

(L.E.J.Brouwer, On the foundations of mathematics, Thesis, 1907, in *Collected Works 1*, p.97, 下線は引用者)

文献表

Baker, G.P., & Hacker, P.M.S *Wittgenstein Rules, Grammar and Necessity Volume 2 of Analytical Commentary on the Philosophical Investigations*, 2nd edition, 2009.

Brouwer, L.E.J. , *Collected Works 1*, ed.by A. Heyting, 1975.

Kripke, Saul A., *Wittgenstein on Rules and Private Language*, 1982.

Schulte, Joachim, *Ludwig Wittgenstein Philosophische Untersuchungen Kritisch-genetische Edition*, 2001.

Wittgenstein, L, *Philosophische Untersuchungen*, revised 4th edition, 2009. (『哲学探究』)

Wittgenstein, L, *Remarks on the Foundations of Mathematics*, 3rd edition, 1978. (『数学の基礎』)